

FUNDRookies

ピックアップ・カテゴリー①

通貨選択型ファンド

「SMBC・日興ニューワールド債券ファンド」が今年最大の当初設定額を記録

2009年の投信市場を席卷した感のある通貨選択型ファンド。その勢いはとどまるところを知らず、10月以降に設定された新規ファンドの当初設定額を見ても、「SMBC・日興ニューワールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）」が約956億円、「野村エマージング債券投信（ブラジルリアルコース）毎月分配型」が約904億円、「野村北米REIT投信（ブラジルリアルコース）毎月分配型」が約896億円となっている（右ページ表参照）。

中でも注目されるのは、10月30日に設定された「SMBC・日興ニューワールド債券ファンド」だろう。同ファンドは日興コーディアル証券が三井住友フィナンシャルグループ入りしたことを機に、両社が共同で企画したファンドであり、設定は三井住友アセットマネジメント。前述のブラジルリアルコースの当初設定額は、2009年の最高額を更新し、シリーズ5本の合計では約1900億円もの資金を集めた。また、同ファンドはやはり同日に設定された「SMBC・日興ニューワールド株式ファンド」（為替ヘッジあり、なしの2本）とのスイッチングも可能となっており、両ファンドシリーズの合計を合わせると当初設定額は2000億円を超える。まさに今年一番の大型設定とっていいだろう。

「SMBC・日興ニューワールド債券ファンド」の投資対象は「世界的な経済構造の変化から恩恵を受ける企業や国が発行する債券」であり、主に米ドル建ての新興国の社債・国債が対象となるが、一部は先進国の社債や国債にも投資される。為替ヘッジを活用したプレミアムの獲得を目指すのは従来の通貨選択型と同様だが、投資対象に「世界的な経済構造の変化」というテーマ性を持たせているのがややユニーク

な点。コースはブラジルリアル、豪ドル、南アフリカランド、円その他、通貨選択型としては初めて中国元コースを採用している。

「1階の投資対象の部分と2階の通貨の部分で、『世界的な経済構造の変化』というコンセプトを統一したことが好結果の要因の1つとみています。つまり、人口の増加や生活水準の向上などによる『変化』がもたらす、『新興国の台頭』や『資源需要の拡大』といったイメージが浮かびやすい通貨を選択したわけです」と、三井住友アセットマネジメントの投信営業第二部長・宇津木暢夫氏は言う。

同社の営業推進部長である吉田郁二氏は、「コンセプトを統一できたこと」とともに、「コースによって多様な効用を示せた」こともプラスに作用したと言う。「円であれば本来のヘッジ機能を用いて為替リスクの抑制を、他のコースであればヘッジによって各通貨そのものを持っているのと同様の効果を狙えます。リアルや豪ドル、南アフリカランドであれば高い利回りに、中国元であれば通貨の上昇期待に注目できるわけですね」。

もちろん、募集期間中にブラジルでのオリンピック開催が決まるなどタイミングにも恵まれたことは間違いない。いずれにしても、同ファンドがこれだけ圧倒的な数字を残したことで、銀・証融合による新たな可能性を投信ビジネスに示した面もあるのではないだろうか。